



並木中等story

令和2年6月2日号

伝染病の感染拡大は奈良時代にも！

新型コロナウイルスの感染拡大が見られますが、日本では過去にも何度か伝染病の感染拡大がありました。日本史の教科書にも出てくると思います。先日まで私は、澤田瞳



子(さわだとうこ)さんの『火定』(PHP研究所)という小説を読んでいました。この本、奈良時代の平城京で起こった疱瘡(天然痘)の大流行が物語の背景となります。その大流行で大勢の人が疱瘡にかかり、亡くなります。今と違い、病院も充実してない奈良時代ですから、伝染病の蔓延は、大変な事態です。当然、それぞれの人々がそれぞれ立場で思いや考えをめぐらし、行動するようになります。その人々の考えや行動に、今回の新型コロナウイルス感染拡大と共通するところも感じられ、私は興味を持ちました。もちろん、作者は奈良時代には生きていませんから、奈良時代の様子が忠実に述べられているわけではありません。しかし、史料(歴史の資料)をしっかりとあたった上で書かれています。時間があれば、現在の状況と対比しながら読んでみてください。皆さんの視野も広がると思います。

《並木中等の感染防止対策》

- 昇降口でサーモグラフィー等を用いて体温を測ります 健康観察を行います
- 登校後も含め、機会あるごとに手洗いをします 各階に消毒液を設置します
- マスクを着用し、教員と生徒が近い場面はフェイスシールドを使用します
- 教室の両側の窓、ドアを一部開け、換気をします 今後、扇風機も設置します
- 生徒どうしが対面する授業は当面控えます

